

事例③

エゾシカのロードキル対策



事例③

エゾシカのロードキル対策



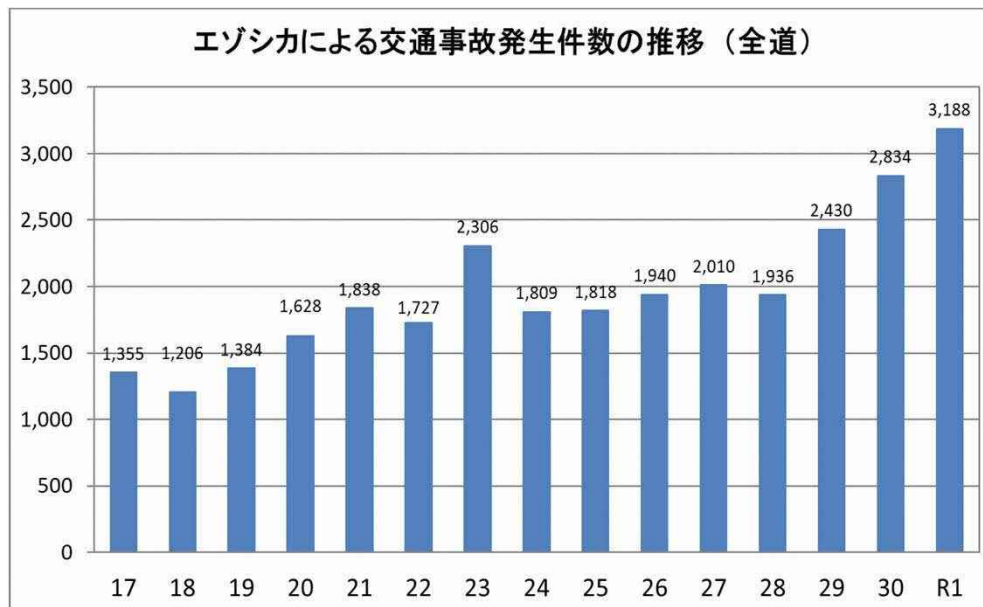
エゾシカのロードキル対策

【背景】

- ・エゾシカとの交通事故件数は年々増加傾向にある（4年連続最多）
- ・エゾシカの道路への侵入を全て防ぐことは困難（全ての道路への柵等の設置は難しい）



エゾシカへの対策（道路侵入対策等）に加え、**ドライバーの行動変容**が、**交通事故の発生を減らし、野生動物の保護や、ドライバーの安全につながる。**



道路を横断するエゾシカの様子



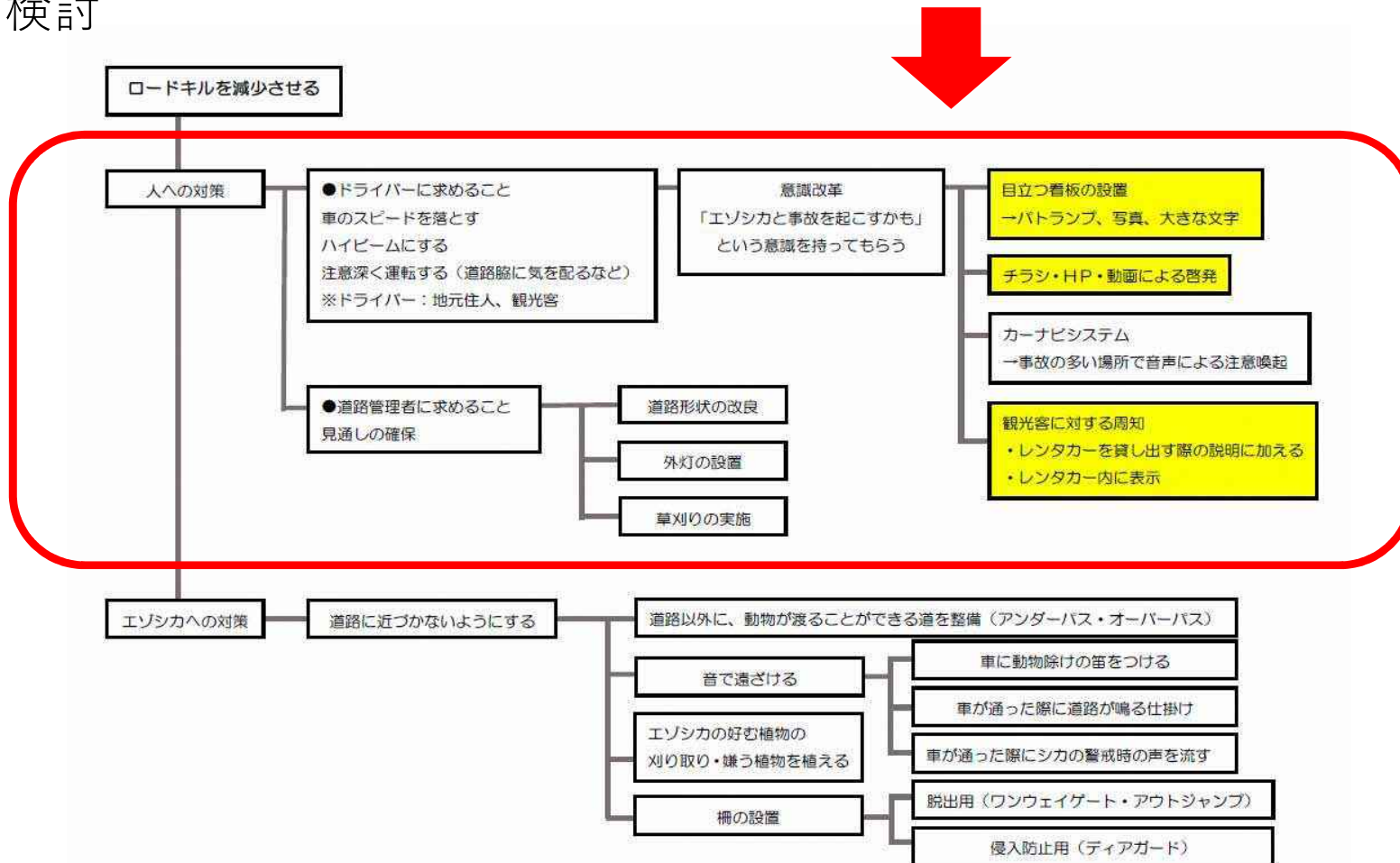
事例③

エゾシカのロードキル対策

- 検討プロセス
- 1 行動の特定①
 - 2 課題分析
 - 3 介入設計
 - 4 効果検証

ロジックツリー

- 「人への対策」と「エゾシカへの対策」に分け作成
- 今回はドライバーの意識改革に焦点を絞り、**人の地元住民と観光客への周知**を軸に検討





事例③

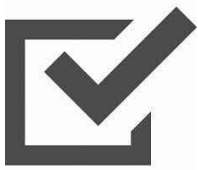
エゾシカのロードキル対策

- 検討プロセス
- 1 行動の特定②
 - 2 課題分析
 - 3 介入設計
 - 4 効果検証

アプローチ表

○ 関係者のヒアリングから、インサイトを得ることができ、**事故件数や損害金額などの定量的知見**を介入内容に取り入れた。

案	Step1/Outcome	Step2/Context		Step3/Intervention			Step4/Test,Learn,Adapt
	目標	想定シナリオ (供給サイド)	想定する主な対象者 (需要サイド)	介入箇所・介入方法 (改善・改良)	介入内容 (メッセージ候補等)	介入時に適用するナッジ (工夫)	実証・検証
1	地元住人(事故の多い道路をよく通る人)による事故を減少させる	事故を起こすかもという意識を持たせ、以下に取り組んでもらう ・ハイビームでの走行 ・スピードを落とす ・注意深く運転する	エゾシカとの事故が多い道路をよく通る地元住人	事故の多い道路(出没ポイント、シカ道)での看板設置、免許試験場などでのチラシの配布	・〇%の人がハイビームにしています ・ハイビームにするだけで、修理費用51万円がタダになります ・ハイビームにしないとシカとぶつかります ・走行車の〇%が減速しています(エゾシカが出没するから) ・ここでエゾシカを見ることができます ・年間3,000件事故発生(道内) ・ここで事故がありました ・看板のデザインを目立つ物に(バトランプ、写真等)	・利益への関連付け ・認知バイアスの利用 ・望ましい社会規範の押し出し	・休憩所などでのアンケート実施(ハイビーム率が多かったかなど) ・事故件数
2	観光客(事故の多い道路を普段あまり通らない人)による事故を減少させる	事故が多く起こっていることを知ってもらい、事故を起こすかもという意識を持たせ、以下に取り組んでもらう ・ハイビームでの走行 ・スピードを落とす ・注意深く運転する	エゾシカとの事故が多い道路を普段あまり通らない観光客	レンタカーを貸し出す際の説明や、レンタカー車内への掲示物、配布物などにエゾシカとの事故の重大さや対策方法を記載する	・レンタカー事故の10%がエゾシカとの事故です(レンタカー事故に遭った10人に1人がエゾシカとの事故です) ・エゾシカとの事故での損失は51万円 ・〇%がハイビームにしています	・利益への関連付け ・認知バイアスの利用 ・望ましい社会規範の押し出し	・レンタカー利用者へのアンケート ・事故件数(レンタカーの事故件数がわかるもの)



事例③

エゾシカのロードキル対策

検討プロセス
1 行動の特定③
2 課題分析
3 介入設計
4 効果検証

チェックリスト

- 事業メンバー8名でのチェックリストの結果、
課題「観光客（レンタカー利用者）への注意喚起」を選定。

レンタカー利用者への周知

- ・ **レンタカー事業者等からの協力**を得ることができる
- ・ **効果検証のためのデータ**が得られやすい
- ・ **タッチポイントが複数**あり、アプローチしやすい

ハイビームの呼びかけ

- ・ 効果検証のためのデータが得にくい
- ・ タッチポイントが不明確
- ・ 行動経済学に基づいた方法を取りにくい

道路看板による呼びかけ

- ・ 効果検証のためのデータが得にくい
- ・ タッチポイントが不明確
- ・ 行動経済学に基づいた方法を取りにくい

採点結果のポイント



事例③

エゾシカのロードキル対策

- 検討プロセス
- 1 行動の特定
 - 2 **課題分析**
 - 3 介入設計
 - 4 効果検証

ジャーニーマップ

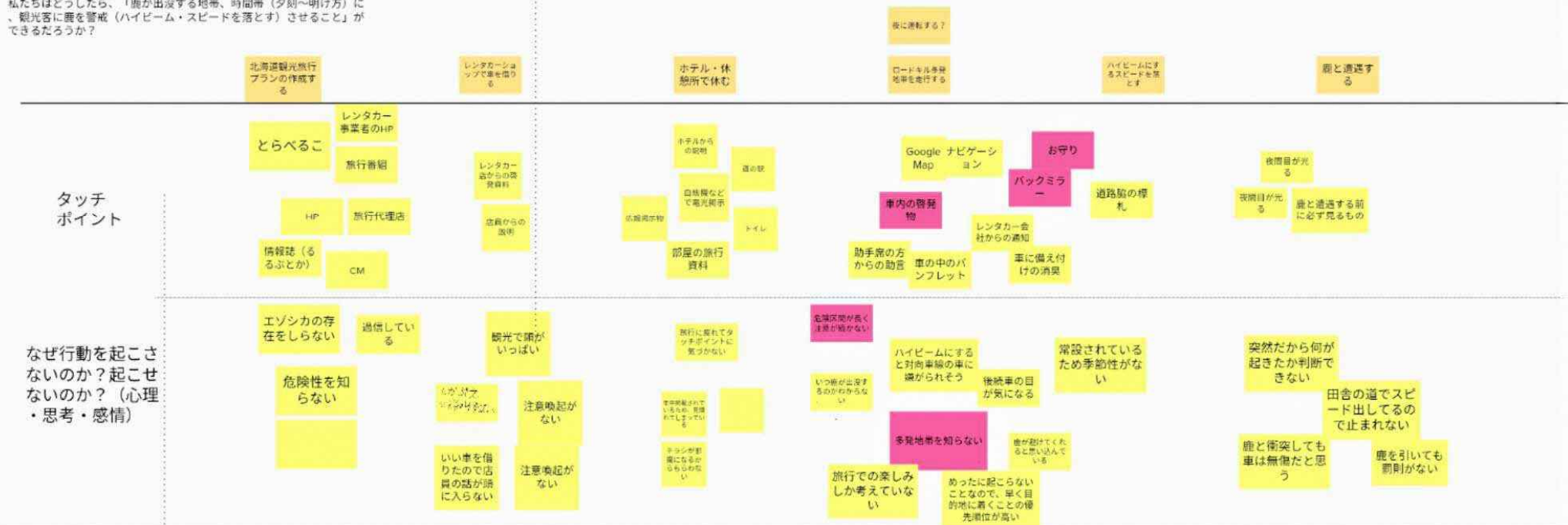
- 有志の職員含むメンバー20名程度でジャーニーマップを作成
- 観光客がレンタカーを借り、運転するまでの行動を洗い出し、その結果**実現可能性やタイムリーな訴求の重要性**から「**車内介入が有効**」の意見多数。

エゾシカロードキル問題のジャーニーマップ

ジャーニーマップは、改善したい状況が具体的にある場合に使用します。

「問い」を定義する

私たちはどうしたら、「鹿が出没する地帯、時間帯（夕刻～明け方）に、観光客に鹿を警戒（ハイビーム・スピードを落とす）させることができるだろうか？





事例③

エゾシカのロードキル対策

令和3年度実施に向けた介入策（案）

目標

レンタカーによるエゾシカロードキルの減少

対象者

日本人観光客

アウトカム の定義

日本人観光客のロードキル件数を○件から△件に減らす
(実施前に具体的な数値目標を設定する)

介入方法 (案)

- ① レンタカー貸出所や立寄場での行動パターンを考慮した情報発信による「ハイビームにするだけで54万円がタダに!？」などインセンティブ訴求
- ② レンタカー車内（運転中視認率の高い箇所）に「レンタカー事故の多くがエゾシカとの衝突事故」など危機意識を高める訴求資材を貼付

検証評価

- レンタカー協会からの事故件数データ
- レンタカー利用者の視認率（アンケート調査）

その他

レンタカー協会ははじめ各種関係機関と実施体制の構築